

産廃処理業の

109

優良化を考える

三重県四日市市に拠点を置き、非鉄金属・鉄くずや被覆電線などのリサイクルに取り組み、ウエスギは、優良性評価制度の適合確認を積極的に受けている。昨年10月に就任した上杉圭司社長は、全国産業廃棄物連合会青年部協議会の活動にも参加し、自社の改革とともに業界全体の改革も目指す。同氏は優良性評価制度やISOなどの取得に取り組むことが、社員の意識改革につながる、産業界に与えるインパクトも変わっているとする。同氏は優良化に対する考えや今後の経営方針などを聞いた。

(黒岩修)



ウエスギ社長

上杉 圭司氏

許可審査期間の短縮などを
 — 優良性評価制度をどう見ているか。
 「処理業者からする期間がかかるが、基準適

と、いまひとつメリットを感じられない。通常新たな許可申請を行ってから許可が下りるまで三重県では2カ月程度の審査期間がかかるが、基準適

理由は。「やはり情報を開示した」。社員の意識改革にもきかっかたか。

「確かに就任した10月頃から世界的な不況となってきたが、個人的にはあまり悲観的には考えておらず、良い勉強だと捉えている。景気が悪いからこそ地に足をつけて取り組める。ピンチをチャンスと捉えて前向きに取り組みたいと思っている」

活躍の場を広げる好機

合業者はこの期間を短縮するなどの措置があれば良いと思う。排出事業者にとっては、処理業者を選定する際に参考になるということも良い制度ではないだろうか。処理側

躍した面もあったが、顧客に安心して信頼してもらうために公開に踏み切った。社内での効果も大きかったか。

「私は社員一人ひとりが起業家であってほしいと思っている。社員皆が起業家として知恵を出し、それを一つの力に結果として行きた。起業者集団を

「良くねればもっと産業界への影響も強くなるのだから、まだまだ産業界や世間からのイメージは良くないのが現実だろう。全国産業廃棄物連合会やその青年部協議会でも様々なことに前向きに取り組んでほしいが、全体に波及するのはもう少し時間がかかるのではないだろうか。しかし不況だからこそ、これから処理業界が産業界全体に与えるインパクトは大きくなるのではないかと

で業務が拡大し、事業種目も増えたので人員の増強を図った」

不況をきっかけに業界が変わるべき

「社長就任頃から経済不況となったが、」

「確かに就任した10月頃から世界的な不況となってきたが、個人的にはあまり悲観的には考えておらず、良い勉強だと捉えている。景気が悪いからこそ地に足をつけて取り組める。ピンチをチャンスと捉えて前向きに取り組みたいと思っている」

「私は社員一人ひとりが起業家であってほしいと思っている。社員皆が起業家として知恵を出し、それを一つの力に結果として行きた。起業者集団を